

運 営 推 進 会 議 開 催 報 告 書

開催日時 2022年2月28日(月)開催分	
参 加 者 (意見照会)	議 題
利用者 0名	① 行事報告 ② 行事予定 ③ 身体拘束適正化検討委員会 ④ その他
利用者家族 0名	
地域住民の代表者 0名	
市職員 0名	
地域包括支援センター職員 0名	
事業所 0名	
会 議 録	
<p>2022年2月28日に行う予定でしたが、事業所の都合により開催を中止しました。</p> <p>① 行事報告</p> <p>1号館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月1日 昼食時におせち料理をお召し上がり頂きました。</li> <li>・1月14日 おやつ時に、誕生日会(2名)を行いました。皆様で、お祝いをさせて頂きました。</li> <li>・2月4日 利用者様に恵方巻作りを行いました。作って頂いた、恵方巻を昼食時にお召し上がり頂きました。午後からは、職員が鬼となり、豆まきを行い、皆さまお楽しみ頂きました。</li> </ul> <p>2号館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月1日 昼食時におせち料理をお召し上がり頂きました。</li> <li>・1月25日 おやつ時に、誕生日会を行いました。皆様で、お祝いをさせて頂きました。</li> <li>・2月4日 利用者様に恵方巻作りを行いました。作って頂いた、恵方巻を昼食時にお召し上がり頂きました。午後からは、職員が鬼となり、豆まきを行い、皆さまお楽しみ頂きました。</li> </ul> <p>1号館・2号館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月13日 3回目のコロナワクチン予防接種(希望者のみ)がありました。接種後、特に副反応はなく、お過ごしになられました。</li> </ul> <p>② 行事予定</p> <p>1号館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3月 ひな祭り</li> <li>4月 花見、誕生日会(2名)</li> </ul> <p>2号館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3月 ひな祭り、誕生日会</li> <li>4月 花見、誕生日会</li> </ul>	

### ③ 身体拘束適正化検討委員会…「せん妄による身体拘束について」

#### 1 せん妄とは

せん妄とは、軽度から中等度の意識障害を主体とし、身体疾患や薬剤、手術などを原因として発症する病態です。

身体的な治療を受けているすべての利用者様にみられる可能性があり、特に高齢者ではせん妄が起こりやすいとされています。

#### 2 せん妄の主な症状

不眠、昼夜逆転、興奮、易怒性、見当識障害、幻覚、妄想、せん妄では、さまざまな症状がみられます。

例えば、夜眠れなくなって逆に日中ウトウトしてしまったり（不眠、昼夜逆転）、日にちや場所の感覚がわかりにくくなったり（見当識障害）、ありもしないものが見えたり（幻視）、さらには怒りっぽくなって暴力的になったり（興奮・易怒性）します。また、治療や検査のことを忘れてしまう（記憶障害）こともあります。ただし、高齢者の場合、見当識障害や記憶障害を認めても、せん妄ではなく年齢の影響や認知症などと考えられてしまうことがあるため、十分注意が必要です。また、認知症の利用者様は、施設内では比較的落ち着いた方が、入院などでの、環境の変化により、せん妄（夜間せん妄）が起きる事があります。

#### 3 せん妄が原因で起こりえる身体拘束

せん妄が発症すると、突然暴れて点滴の管を抜いたり、ベッドから転落したりする事があります。専用のベルトを使ってベッドに体を固定したり、鍵がないと外せない大きな手袋（ミトン）を両手につけたりすることもあります。そのため、拘束から抜けようと試みて自身の皮膚や体を傷つけたり、拘束帯が首や胸腹部に絡まって窒息の危険につながる行動をとったり、ベッドを無理に乗り越えようとして転倒、転落する事が考えられます。また、ベッドに体を固定されているので、皮膚トラブルの褥瘡、パット内での排泄による尿路感染症、関節可動域や身体活動を制限されるので、関節の拘縮、意欲低下などが考えられます。

#### 4 まとめ

施設では、身体拘束を行わない対応として、ベッドから転落する危険性がある方は、必要に応じて、床にマットを敷き、万が一、ベッドから転落をしても大きなケガに繋がらないようにしています。不眠や昼夜逆転に関しては、不眠があっても、直ぐに睡眠剤などの薬を使用したら、良いのではないかと考えを持たないようにしています。まずは、生活の中で、日中は、家事活動や、軽体操、散歩などで、身体を動かす機会を増やし、夜、ゆっくり休んで頂ける様に、取り組んでいます。また、幻覚、幻視の訴えがあっても、「そんな物はない！」など、否定したり、説得するのではなく、利用者様に寄り添い、否定はせずに、納得して頂けるように取り組んでいます。